

## 「第 19 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議」

令和 2 年 1 1 月 1 2 日（木） 1 3 時 0 0 分

都庁第一本庁舎 7 階 大会議室

### 【危機管理監】

それでは、第 19 回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を開始いたします。

本日の会議の席には、新型コロナタスクフォースのメンバーをお願いしています、東京都医師会副会長の猪口先生と、国立国際医療研究センター国際感染症センター長の太田先生、そして、東京 iCDC 専門家ボード座長をお願いしています、賀来先生にご出席をいただいています。よろしくお願いいたします。

また、本日の会議には、東京 iCDC のリスクコミュニケーションチームでいらっしゃいます、放送大学教養学部教授の奈良先生にもご出席をいただいています。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速でございますが、「感染状況・医療提供体制の分析」につきまして、まず、「感染状況」につきまして、太田先生からをご説明お願いいたします。

### 【太田先生】

それでは、ご報告いたします。

まず、「感染状況」で、最初のまとめの紙からのご報告でございますが、総括のコメントでございますけれども、色としては、上から 2 番目の橙色であります。

ただ、コメントとしては、これまでは「再拡大に警戒が必要」ということを申し上げておりましたが、今回は明快に「感染が拡大しつつあると思われる」ということで判定をしております。

新規陽性者数、それと接触歴等不明者数が大幅に増加しております。これを我々は急速な感染拡大の始まりととらえております。今後の深刻な状況、これを厳重に警戒する必要があると考えております。

対策に関して改めてでございます。やはり重要なので、何度でも申し上げますが、手洗い、そしてマスクの着用、3 密を避ける、そして環境の清拭・消毒、そして、こまめな換気、これらを徹底する必要があるということで申し上げます。

それでは、詳細に移って参ります。

#### ①の「新規陽性者数」を紹介します。

この数回、唾液検査のことを申し上げますが、今回もご報告いたします。唾液検査が可能になりまして、都の外に住んでいらっしゃる方が、自分で採取した検体を郵送で送られて、検査自体は都内医療機関で行われてということがあります。

その結果、陽性となった方は都内の保健所に発生届が出されます。これらが見られるようになってきたと。ただ、発生地は東京ではありませんので、東京都の発生者ではありません。ですので、この報告では新規陽性者数から除いてモニタリングをしております。今回は 23 人ございました。

①－1 でございます。新規陽性者数でございますが、新規陽性者数の 7 日間平均は、前回 11 月 4 日時点の約 165 人から 11 月 11 日時点の約 244 人ということで、大幅に増加してございます。

新規陽性者数の増加比が 100%を超える、これは増加傾向の指標であります。増加比、前は 106.2%でございましたが、11 月 11 日時点で 147%と上昇しております。

今回の新規陽性者数でございますが、週当たりになりますと 1,400 人を超える高い水準となりました。また、増加比でございますが、前回から連続して 100%超えております。

ですので、今回、急速な感染拡大の始まりととらえ、今後の深刻な状況を嚴重に警戒する必要があると判定をしております。

現在、増加比は 147.7%でございますが、これが 4 週間そのままの増加日で継続すると、計算すれば、新規陽性者数は約 4.8 倍、1 日当たり 1,160 人程度となります。これは極めて深刻な状況であります。

これをちょっと多過ぎるんじゃないか、絵空事ではないかと言われるかもしれませんが、私たちは夏にですね、同じような状況があって、本当に週単位で患者さんが増えていった。このように急速に増えていったことを経験しているということは申し上げておきたいと思えます。

もう一つ、在留外国人への言語や生活習慣等の違いに配慮した情報提供、それと支援が必要であると考えております。

現場でお話を聞かしても、なかなか健康の問題があっても、いろいろと不安がある。お金の不安ですとか、そもそも電話をかけるのも、怖くてできないといったことで、相談できない。そういう状況があります。

それを皆でサポートしていく必要があると考えておりますし、その結果、陽性の方が見つければ調査をしますけれども、その場合の濃厚接触者に対する積極的な疫学調査の拡充、この検討の必要があると考えております。

今こそ、PCR 検査の増加による陽性者の早期発見、そして感染防止対策、これらを取り組む必要があると考えております。

①－2 にお移りください。年代別の比率でございます。

今週の報告でございますけれども、10 歳未満が 1.8%、10 代が 6.4%、20 代が 25.6%、30 代が 19.1%、40 代が 17.1%、50 代が 12.4%、60 代が 6.5%、70 代が 6.7%、80 代が 3.6%、90 代以上が 0.8%でございました。

①－3 にお移りいただけますでしょうか。ここには、新規の陽性者数、65 歳以上をお示ししてあります。前週の 10 月 27 日から 11 月 2 日まで、ここでは陽性者数は、65 歳以上

の方が165人でありました。

全体の比率としては14.3%であったわけですが、今回、全体の比率は13.5%と、比率は変わらないんですけども、絶対数としては、人数が197人ということで増えております。高齢者の患者数が増加しているということが、今週は目立っております。

①-4にお移りください。濃厚接触者の動向であります、感染経路別の割合ですけれども、前週と同様に、同居する人からの感染が40.7%と最も多いと。その次にいきますのが職場での感染であって、15.2%、そして施設、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、病院、保育園、学校等の教育施設等でございますが、14.6%というところであります。

一方、今週の特徴としては、これは時期を反映するのかもしれませんが、会食が10.1%、接待を伴う飲食店等が4.0%で前週より増加しております。これまでは、どちらかといえば減少傾向の比率であったわけですが、上がっております。

今週の濃厚接触者における感染経路別の割合を年代別で見ていきますと、80代を除くすべての年代で、同居する人からの感染が最も多いと、10代以下、それと70代、ここでは50%を超えているというところであります。次いで多かった感染経路を見ますと、20代から60代は職場、10代以下と70代は施設での感染が多かったというところです。80代以上ですが、施設での感染が56.3%と最も高かったというところでございます。

この中身でありますけれども、今週もですね、同居する人からの感染が、これ15週連続なんです、最も多くなっているというところです。

一方で、様々な場で感染が出ております。それは職場であり、施設であり、会食、接待を伴う飲食の場でございます。

職場、施設、あるいは飲食店、ここで感染して、複数の家庭内に新型コロナウイルスが持ち込まれる恐れがあると思います。実際に起こっております。

職場、施設、寮などの共同生活や家庭内等では、改めて基本的な感染防止策である、「手洗い、マスクの着用、3密を避ける」、環境の清拭・消毒、これらを徹底する必要があると考えております。

また、換気的重要性ということが非常に言われております。寒い中で換気するというのは、確かに大変ですが、非常に重要なところでありますので、外が寒くて暖房を入れていても、1時間ごとに窓を開けるといった、換気を徹底する必要があると考えています。

また、経済活動が活発化しておりますし、人の往来あるいは活動が増えております。これは、そのまま何も対策しなければ感染のリスクが高まる機会が増加するということになります。

年末年始、もう11月に入りましたけれども、忘年会ですとか、新年会、初詣、大人数での長時間による飲食の機会、あるいはイベント等が増えることが想定されております。

これらによって感染のリスクが上がって、結果として新規陽性者数が増加するということを懸念しております。

今週、このような状況でありますので、今後の深刻な状況を十分に厳重に警戒するという

ことから、人と人が密に接触する、マスクを外して長時間、複数店にまたがり飲食あるいは飲酒を行う、大声で会話するといった行動に伴うリスクに留意して、基本的な感染防止策を徹底するということを申し上げておきたいと思います。

参考までに、国の分科会でも、クラスター解析の結果として、いろいろな社会事象がある中で、リスクの高い場というものを五つ挙げてくださっています。五つの場面ということですね。

ここを見ますと、飲酒を伴う懇親会等、大人数や長時間におよぶ飲食、マスクなしでの会話、狭い空間での共同生活、居場所の切り替え等が挙げられています。

特別な場があるではなくて、こういうところだということが、明確に調査の結果、挙げられています。多くの方々はこうした場のリスクを知ってくださっておりますけれども、まだまだご存知ない方もいらっしゃると思いますので、啓発が必要と思っております。

旅行、友人あるいは親族との会食、自宅等でのパーティー、あるいは接待を伴う飲食店を通じての感染、あるいは部活動ですね、といった感染が起こっております。

また、今週も複数の病院、高齢者施設及び職場でのクラスターが出ております。大規模ではないですが、やはり高齢者の方の陽性者が増えているということも気になる場所でありまして、そうした方々がいらっしゃる院内・施設内感染の感染防止対策の徹底が必要と考えております。

①-5にお移りください。無症状者の傾向であります。今週の新規陽性者数 1,459 名のうち、無症状の方が 263 人、18%でございました。18%、高い数字であります。

なぜこれぐらい出るかといいますと、職場に陽性者が発生したことで、自発的に検査を受けたり、あるいは保健所の方々が積極的に濃厚接触者の調査をされていますので、見つかったというわけです。

こうやることによって、早期の隔離を行って感染拡大の防止に繋がるということを考えております。

経済活動を活発化して、無症状あるいは症状の乏しい方の行動範囲が広がる可能性があります。それは、我々も実際に一生活者として社会を見ていると、非常に気づくところがあります。ですので、感染機会があった無症状者を含めた集中的な PCR 検査等の体制強化が進められると思っております。

また、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、病院等、重症化リスクの高い施設、あるいは訪問看護はですね、そこで無症状や症状の乏しい職員を発端とした感染を現実に見られています。厳重な警戒が必要と考えております。

都では、こうした職員の方々利用者の方々に対する検査ということで、民間の検査機関と協力して、検査の準備を進めていると伺っております。

次に、①-6にお移りください。保健所別の届出数でございます。今回は大田区が 114 名、7.8%と最も多いという状況でございました。次いで新宿区が 99 人、6.8%、世田谷が 86 人で、5.9%、みなとが 83 人、5.7%、足立が 76 人、5.2%でありました。今週は、島しょで

も 2 人、0.1%でありますけども、感染者が発生しており、都内の全域に感染が拡大しているという状況でございます。

次に、②に移ります。「#7119 における発熱等相談件数」でございます。

この #7119 の 7 日間平均でございますが、今回はですね、前回は 55 件でありましたが、今回は 56.1 件ということで、横ばいございました。

私たちは、これは感染の拡大の早期の予兆の一つということで見ております。実際、第一波では、患者さんが急速に増える前に、この数値が増えたということを経験しておりますので、注意して見ているということを申し上げておきたいと思えます。

次に、③にお移りください。「新規陽性者数における接触歴等不明者数・増加比」でございます。

③-1 であります。不明者数でありますけども、7 日間平均で、前回の約 91 人だったのが、今回は、11 月 11 日の時点で約 137 人ということで、大幅に増加しております。

非常に、この接触歴等不明者数は、このところ高い水準のまま推移してきたわけですが、今回大幅に増加しております。

今後の動向について厳重に警戒するとともに、これ調査をする必要がありますので、積極的疫学調査の拡充に向けて、保健所の支援が必要と考えております。

次に、③-2 にお移りください。これは、新規陽性者における接触者歴等不明者の増加比でございますけども、こちらに関しては 11 月 11 日時点で、前回の 107.8%から今回は 151.5%と上昇しております。

この接触歴等不明者の増加比も、前週からですね、連続して 100%を超えております。これは急速な感染拡大の始まりととらえております。今後の深刻な状況を厳戒、厳重に警戒する必要がありますと考えております。

こちら 151.5%の増加比でありますけども、これが仮に 4 週間持続するとですね、接触歴等不明の新規陽性者数は約 5.3 倍、1 日当たりで 720 人ということになります。これは、もしそうになってしまえばの話ですが、極めて深刻な状況でございます。

ということで、感染の状況に関しては私からでございました。以上です。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

続きまして、「医療提供体制」につきまして、猪口先生からお願いいたします。

#### 【猪口先生】

「医療提供体制」について、ご説明させていただきます。

総括コメントはですね、「体制強化が必要であると思われる」ということで、上から 2 段目の橙色、これは変わらずであります。

矢印を見ていただいて、下の入院患者数と重症患者数、ここは横ばいではありますが、コ

メントに書いてある通りですね、入院が必要な患者の急増にも対応できる病床の確保が必要である。それから、重症患者の半数は、今週新たに人工呼吸器を装着した患者であり、今後の推移と、通常の医療体制の影響に警戒が必要であるとしております。

入院患者数は、今確保しているベッドはですね、重症患者がレベル1で、それから軽症中等症に関してはレベル2なんですけれども、これを広げなくてはいけないんじゃないか。

それから、重症患者さんについてもですね、38人と、先週からあまり変わってないのに見えますけれども、約半数の患者さんが新たに人工呼吸器を装着されて、そしてそれが外れているということで、ダイナミックに動いておりまして、重症患者さんがちょっと長引くそうですね、一気に50を超えてきそうな数字であるということをご認識いただきたいと思います。

では、細かいコメントに入らせていただきます。

④のグラフでございます。7日間平均のPCR検査等の陽性率は、前回の3.9%から11月11日時点の5.0%に上昇しました。PCR検査等の人数は、前回は3,797人、11月11日時点では4,556人と増加いたしました。

検査数は増加していますが、それ以上に新規陽性者数が増加しているため、陽性率は上昇しています。

複数の地域や感染経路で、クラスターが発生しており、その推移に警戒が必要であります。感染経路が多岐にわたっている可能性があります。

感染リスクが高い地域や集団及び重症化するリスクが高い高齢者施設などに対して、感染予防策に関する情報提供や、感染拡大抑止の観点から、無症状者も含めた集中的なPCR検査を行うなどの戦略を検討する必要があります。

PCR検査については、最大25,000件、1日当たり検査能力を確保しています。5.0に上がっているのに対して上がってきたということですね、検査がやっぱり足りてない。

やっぱり、クラスターが起きている周辺でですね、もう少し細かい、大曲先生の言う通りに、戦略的な検査をした方がいいのではないかと私自身は考えています。私見になりますけれども、よろしくお願いします。

新型コロナウイルスと季節性インフルエンザの同時流行に備え、検査体制整備計画を策定し、ピーク時に必要と想定した最大約65,000件/日のPCR検査等を迅速に実施できるよう、東京都医師会等関係機関と連携し、12月上旬までに検査体制を整備することとしております。

⑤、お願いします。「救急医療の東京ルールの適用件数」です。

東京ルールの適用件数の7日間平均は、前回の34.9件から、11月11日時点で42件と増加しております。

⑥-1、「入院患者数」をお願いいたします。

11月11日時点の入院患者数は、前回の1,040人から1,076人と横ばいでした。

増加比が100%を上回っていて、入院患者数は、依然1,000人前後で推移しており、入院

が必要な患者の急増にも対応できる病床の確保が必要です。

第一波、第二波の時のベッドを拡張していかなくちゃいけない時の圧迫感がですね、現場にはあります。非常に注意しなくてはならない状況と考えます。

それから、陽性者以外にもですね、個室で管理が必要な疑い患者を 1 日当たり都内全域で約 150 人程度受けております。

⑥-2 に移ります。これは療養状況ですけれども、検査陽性者の全療養者数は 11 月 11 日時点で 2,226 人です。内訳は、入院患者 1,076 人、宿泊療養者 383 人、自宅療養者 348 人、入院・療養等調整中が 419 人です。入院患者数は前回から横ばいではありますが、それ以外の療養者数は大幅に増加いたしました。

今回の状況を急速な感染拡大の始まりととらえ、今後の深刻な状況を見据えた入院・宿泊療養の体制の確保や、陽性者の重症度、緊急度に応じた療養先選定のあり方を早急に検討する必要があります。

保健所から入院調整本部への調整依頼件数は、平日は 70 件程度ですけれども、土日は 100 件を超える件数となっております。

緊急性の高い重症患者、それから認知症や精神疾患を持つ患者の病院・施設からの転院、それからですね、在留外国人の入院などで、受入先の調整が困難な事例が見られております。特に日祝祭日は、受入可能な病床数が少ない状況が続き、住所地から離れた医療機関へ受け入れを依頼した事例が発生しました。受入先の調整が難航することは、病院の受入体制が厳しい状況になっていることと考えます。

入院・宿泊調整の結果、キャンセルする事例が、依然として一定数存在します。

では、⑦の「重症患者数」です。

⑦-1 です。重症患者数は、前回の 35 人から 11 月 11 日時点で 38 人と、増減しながら推移しております。

今週、新たに人工呼吸器を装着した患者さんは 19 人、半分ですね。先週は 15 人でした。この時も約半数だったんですけれども、人工呼吸器から離脱した患者さんは 14 人、人工呼吸器使用中に死亡した患者さんが 4 人でありました。

今週、新たに ECMO を導入した患者さんは 1 人、ECMO から離脱した患者さんが 1 人、11 月 11 日時点で人工呼吸器を装着している患者が 38 人で、うち 3 人が ECMO を使用しております。

重症患者の半数は、今週新たに人工呼吸器を装着した患者です。

陽性判明日から重症化まで平均 4.2 日で、軽快した重症患者における人工呼吸器の装着から離脱までの日数は、中央値 16.5 日でした。

人工呼吸器の離脱まで長期間を要する患者が増加しますと、1 日当たりの重症患者が急増する恐れがあります。これが本当に心配なんです。ほんのちょっとしたことで重症患者が増えてくる可能性が高いです。

新規陽性者のうち、重症化リスクが高い高齢者が増加しております。人工呼吸器管理を要

する患者が複数入院している医療機関も増えております。

重症患者において、ICU 等の病床の専有期間が長期化することを念頭に置き、新型コロナウイルス感染症患者のための医療と通常の医療との両立を保ちつつ、重症患者のための病床を確保する必要があります。

レベル 2 の重症病床を準備するためには、医療機関は第一波のピーク時と同様に、予定手術や救急の受け入れを大幅に制限せざるをえないと考えます。

先ほども言いましたけれども、レベルをそれぞれ上げると、一般の医療が必ず圧迫されてきますので、この新規陽性患者が増えているということは、本当に心配な状況であります。

⑦-2 であります。これは、年代別に書かれておりますが、このグラフで見ると、明らかに重症患者が右肩上がりが増えていくことがわかっていくと思います。

11 月 11 日時点の重症患者数は 38 人で、年代別内訳は、40 代が 2 人、50 代が 5 人、60 代が 10 人、70 代が 11 人、80 代が 10 人でした。

60 代以下は、死亡者が少ないものの重症患者全体の約半数を占めております。性別では、男性 31 人、女性 7 名でした。

重症化リスクの高い人への感染を防ぐためには、引き続き家族間、職場及び医療・介護施設における感染予防策の徹底が必要です。

今週報告された死亡者数は 3 人であり、そのうち 70 代以上の死亡者が 2 人でした。

以上であります。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

それでは、3 項目目の意見交換に移ります。

ただいまご説明のありましたモニタリングの分析、また、都の対応等について何かご意見のある方がいらっしゃいましたら、お願いいたします。よろしいですか。

それでは、賀来先生から何かご報告ありましたらお願いしたいと思います。

#### 【賀来先生】

ありがとうございます。

ただいま、大曲先生、猪口先生から、現在、非常に厳しい状況になりつつあるというご報告がありました。

データを見ても、皆さんその通りだというふうにご認識いただいていると思います。特に、この冬にかけて感染が急速に拡大していくことが懸念されています。

このような非常に厳しくなっていく状況に対しては、東京都、そして都民の方々がともに連携して、協力して対応していくことが非常に重要になります。

特に、生活をしておられる都民の方々の新型コロナウイルス感染症や、感染症対策、手洗いなどに対する意識、あるいは考えや思いといったようなものをしっかりと踏まえて、より

細やかに、そして総合的に対応していくことが望まれます。

東京 iCDC では、リスクコミュニケーションのボードの先生方が、予備的な調査ですが、都民の方々に対して意識調査を行っております。

本日は、東京 iCDC リスクコミュニケーションボードの専門家ボードの奈良先生から、その結果についてお示しをいただきたいと思います。

奈良先生よろしくお願いします。

#### 【奈良先生】

ご紹介ありがとうございます。奈良と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、リスコミチームの方からご報告をしたいと思います。

リスコミチームでは、伝えるコミュニケーションに加えて、聞くコミュニケーション、この両方を大切にしたいと思っております。今回は聞くコミュニケーションの一つとして、アンケート調査を行ったものです。

こちらがですね、今回の調査のフレームとなっております。調査は、今年度の10月15日から17日に行いました。今回のアンケート調査は、東京都の人口構成比率には即しておらず、またサンプルサイズも小さいということで、あくまでもですね、予備的な調査と位置付けております。それでも大まかな傾向を把握することができると思います。この件についてご留意いただきながら、これからの話を聞いていただければと思います。

次、お願いします。こちらが有効回収票の内訳となっております。性別は、男女おおよそ半数ずつとなっています。年齢は、20代、30代、40代、50代、そして60・70代の割合が、それぞれ2割ずつとなっています。

では、次をお願いします。調査の結果です。まず、都民の皆さんの新型コロナ対策の状況について、その結果をお示ししております。

今回の予備調査の結果から見ますと、対策を10項目挙げたのですが、マスクをつけるなどですね、どの項目も緑色の「夏も今も、同じくらい気を付けている」、それから青色の「今の方が気を付けている」、この合計の割合が高くて、6割から9割程度となっております。つまりですね、この長く長く続いている感染流行の中でも、多くの都民の皆様が予防対策に取り組んでいらっしゃるという様子が見て取れるかと思います。

ただ、やはりその一方でですね、黄色の「夏の方が気を付けていた」、さらにはオレンジの「夏も今も、特に気を付けていない」という回答も、やはり一定割合で見られています。黄色が多いものとしては、例えば、「東京都の感染状況についての情報を得る」ですとか、「3密を避ける」ですとか、「混雑する時間・場所を選ぶ」といったものが挙げられます。それから、飲み会関連ですね。これについても、夏からは低下しているということが見て取れます。

なおですが、取り組みの実施には、項目にもよりますが、性別、年代との関連が見られます。例えば、性別で言えば、特に飲み会関連を含めて、7項目において男性の気をつけ程度

が女性よりも低いという結果になっていました。それから、年代別でも差があつてですね、多くの項目において、若い世代では、ほかの世代に比べると、取り組み割合が低くなつておりました。なつていましたが、それでもですね、夏と同等以上に気を付けている割合というのは、20代で6から8割程度、30代では7から9割程度となっています。この数というのは、ほかの世代と比べて低いとはいえ、かなりの割合で若い世代の方々が、感染対策に取り組んでいらっしゃる事がわかります。

元来、若い世代というのは、活発なわけで、しかも今、経済活動が本格的に再開されて、学校も再開されています。その中では、人と会ったり、様々なイベントに参加したりすることも増えてきています。これは若い方に限ったことではないと思うのです。そういった行動、活動を直ちに止めない、やめることができないときには、こういった行動に伴うリスク、これをできる限り少なくするという考え方が大切になってくると思います。

したがって、やはり感染予防策の基本に立ち返るということになろうかと思ひます。つまり、ここで今一度、改めて手洗い、マスク装着、そして3密を避けるといったような基本的な予防策を徹底するということが重要になるというふうに思ひています。とともに、こういったことができていない場合に、何でかという背景とか理由をきちんと探る必要があるというふうに認識しております。例えばなのですが、3密回避がなされていないときに、なぜなのか、一つにはそういう方法があるということがご存じないかもしれません。あるいは、そういう方法があるのは知っているけれども、有効性を認めていない、ご本人がですね、からかもしれません。あるいは、方法も知っているし、有効性も認めていて、やりたいとは思っているけれども、やれないんだと、職場が、あるいは学校が、あるいは生活の場がですね、そういう条件にないんだということで、やれないのかもしれません。あるいは周りの人に同調せざるを得ないのかもしれません。どういう背景、要員でできないのかということ、しっかりと対話を通じながら丁寧に見て行つて、その層に応じたメッセージを、コミュニケーションしていくことが、今後必要なんだろうなということを強く感じております。

では、次のスライドをお願いします。次のスライド、これが都民の皆さんが、新型コロナウイルス感染症に対してどのような考えを持っているのかの結果です。特に一番上、2番目の帯グラフですが、「自分は感染しない」と思ひている方、また、「感染しても、自分は重症化しない」と思ひている方、それぞれ2割強の割合でいらつしゃいます。少し詳しく見ますと、20代、30代でその割合が高くなつています。それから、どれも大事な結果なのですが、一番下を見ますと、「周りの人たちに『気のゆるみ』が出てきて心配だ」という方々も7割弱いらつしゃるという結果も出ています。

では、次です。次のスライドをお願いします。このモニタリング会議の知名度についても、皆さんに伺ひました。その結果がこちらのグラフです。結果としては、こういった活動について、知らなかったという方が約4割いらつしゃいました。一方で、ホームページ、ニュース等で知っているという方が5割強おられて、その知っている方のほとんど、9割が今後も続けてほしいというふうに思ひておられます。という結果になりました。

では、次のスライドをお願いします。この冬ですね、ツインデミックが懸念されているわけですが、どんな情報が欲しいですかということを伺ったものです。関心が高かった項目としては、「新型コロナ検査の受け方」、また、「医療機関にかかる方法」、「医療費に関する情報」、このあたりの関心が高かったようです。また、「体調を相談できる窓口」、「療養する場所がどこになるか」、こういった情報についても、関心が高かったと思います。一方で、一番下とその上を見てください。「年末年始の帰省」、また「忘年会・新年会での注意事項」、これへの方法の関心は、低くなっております。このあたり、またしっかりと見ながら、情報発信、出し方、内容について、検討していきたいと考えております。

では、最後のスライドをお願いします。最後の問いとして、調査では、新型コロナウイルス感染症に関連して、あなたが直面している問題・不安、何でも自由にお書きくださいというふうにお願いをしました。そうしますと、3分の1くらいの方が書いてくださったのですが、実に様々なことを書いてくださりました。「家族・知人への心配」、「暮らし向き、仕事、学業への心配」などですね、様々であったということがわかりました。このあたり、また丁寧に見ていきたいというふうに思っています。

以上が調査の結果でした。今回、貴重な都民の皆様からお声をいただいたわけですので、これをまたさらに分析をしつつ、また追加の調査も行いながらですね、リスクコミュニケーションに活かしていきたいと考えております。

以上です。ありがとうございました。

#### 【危機管理監】

奈良先生、ありがとうございました。

それでは、ただいまありましたリスクコミュニケーションチームの報告につきまして、知事の方からご発言をいただければと思います。

#### 【都知事】

ありがとうございます。

第19回になりますモニタリング会議、猪口先生、そして大曲先生、賀来先生、ご参加いただきまして、ありがとうございます。

そして、ただいま、新型コロナウイルス感染症対策を実効性ある取組とするためにも、何よりも都民の皆様方の協力が不可欠であることを改めて感じております。

リスクコミュニケーションチームにおいて、これは東京iCDC、賀来先生が座長を務めていただいております。リスクコミュニケーションチームの奈良先生、ありがとうございました。

都民の考え、意識を知ることが必要ということで、10月に、このiCDCを設置して、その直後から、予備調査に取り組んでいただいたと聞いております。

奈良先生のご説明の中でも、6割から8割の方々が、今でも、感染が再拡大した夏と同じ

くらいの感染予防に気をつけているということでありました。

また、活動が活発な若い世代の方々におかれましても、感染に気をつけながら行動していただいているということでございます。長引く流行の中で、都民の皆さんの協力・努力に改めて感謝する次第でございます。

一方で、周囲の「気の緩み」を心配する回答も、約7割あるということでございます。

冬に向けまして、感染の拡大を防ぐために、今後ともご協力をお願いしたいと、このように考えております。

よく「気の緩み」という言葉を使いますけれども、それは今、リスクコミュニケーションのこの調査を通じて、皆さんがそういうふう感じていらっしゃるというエビデンスを頂戴いたしました。ありがとうございます。

これらをベースにしながら、さらに引き続きのリスクコミュニケーションチームのご尽力をよろしくお願いを申し上げたいと存じます。誠にありがとうございます。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

リスクコミュニケーションチームの皆さん、ありがとうございました。

それではですね、会議のまとめといたしまして、知事から最後にご発言をいただきたいと思っております。よろしくお願いします。

#### 【都知事】

改めまして、猪口先生、大曲先生、賀来先生、そしてWeb会議で、今回リスクコミュニケーションに当たっていただきました奈良先生、お忙しい中でのご出席、誠にありがとうございます。

さて、第19回のモニタリング会議、まず、先生方から、感染状況、医療提供体制はともにオレンジ色をであるが、感染状況については、「感染が拡大しつつあると思われる」とのコメントを頂戴いたしました。

感染状況であります、新規陽性者数、そして接触歴等不明者数、大幅に増加をしていること。そして、急速な感染拡大の始まりととらえていること。今後の深刻な状況を厳重に警戒する必要があるとのこと。この3点、ご指摘いただきました。分析していただきました。

また、感染経路であります、家庭内での感染は、15週連続して最多であること。会食、接待を伴う飲食店等が、前週より増加していると、ご指摘があります。

また、重症患者数についての分析で、前回の35人から38人と増減しながらの推移が続いている。

今週報告された死亡者、3人いらっしゃいまして、そのうち、お二人が70代以上であること。

これらご指摘をいただいたところであります。

以上のご指摘を踏まえまして、都民・事業者の皆様方へのお願いでございます。

まず、都民の皆様方には、改めまして、「手洗い、マスク、そして3密を避けていただく」、基本的な対策でございます。これを改めてご確認ください。

それから、テーブルやドアノブなどの消毒の徹底をお願いいたします。

また、外が寒くなって参りまして、暖房を入れておられるかと思えますけれども、それでも、こまめな換気をお願いいたします。

それから、会食であります。こちらの方は、大人数、長時間を避けて、大声にご注意を賜りたい。特に、ご面倒でも、飲食時間の間は、食べているときは当然ですけど、マスクを外すとはいえ、そのあとの歓談の際もですね、このマスクを改めて着け直していただくなど、徹底してください。

外食時ですけれども、どこのお店に行くかについては、ステッカーのあるお店を選んでください。お店の感染防止策にも、ご協力をお願い申し上げます。

お店の方からなかなかお客様に対して言いにくいというようなこともありまして、ポスターもつくっております。この点も徹底していただきたい。

それから、家庭内にウイルスを持ち込まないということが、今、家庭内での感染が15週連続しているということの対応策であります。

まず、ウイルスを家庭内に持ち込まないように、職場、施設などでも、感染防止対策の徹底をお願いいたします。高齢者など、重症化リスクの高い方がいらっしゃるご家庭、職場及び医療・介護施設内におきましては、特にご注意をお願い申し上げます。

引き続き、都民・事業者の皆様とともに、これはもうずっと合言葉でございますが、「防ごう重症化 守ろう高齢者」、この対策を進めて参りたい。

そしてまた、かねてより季節性のインフルエンザとの同時流行が懸念されるわけですが、その備えについて、受診相談体制の整備、検査体制の充実などに引き続き取り組んで参りたいと存じます。

そして、これ以上の感染拡大、何としてでも防ぐ。そのためにも、都民・事業者の皆様、引き続きのご理解・ご協力をよろしくお願いを申し上げます。

私からは以上でございます。

#### 【危機管理監】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第19回東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議を終了いたします。